

2018年

246号

11月21日(水)

ねんきん越谷

全日本年金者組合越谷支部

〒343-0845

埼玉県越谷市南越谷2-13-49

(越労連内)

TEL・FAX 048-989-2472

E-mail keyaki-n@biscuit.ocn.ne.jp



11月5日、早朝に目がさめて、カーテンを開いて窓の外を見ると地面がぬれ、弱い雨が降っていました。今日は年間行事の秋のいも煮会&誕生会です。私は3回目の参加です。昨年から執行委員になったので、9時すぎには中央市民会館へ。雨はやんでいたが曇り空でした。地下の駐車場からいも煮の材料を3階の調理室へ運ぶと、そこには料理上手な4名の女性組合員が待っていたので、今年もおいしく食べられると安心しました。12時すぎに中土手の会場で樋口さんの司会で始まりました。雨の心配はなかった晴天で気温も上昇し上着がいらなくな

秋のいも煮会 & 誕生会



候となりました。

吉田支部長の挨拶、伊藤富子さんの乾杯後、全員にいも煮がくばられました。その後差し入れの紹介後に、一分間スピーチ。途中で対岸で練習していた新婦人コカリナ小組のコカリナ5曲の演奏があり、そのあと一分間スピーチを継続、全員の発言がありました。

その他、司会の樋口さんの尺八の演奏など楽しい一日でした。最後に誕生会を持って記念写真(左から工藤卓司・阿部美芳・伊藤富子・浅崎修子・伊東正隆の皆さん)

尚、途中退席した宮川・大和田さんにも渡しました。今回の参加者は参加予定者37名を上廻り、コカリナ小組の皆さんを入れて49名でした。

来年も年間行事に大勢の参加を!! 差し入れは順不同でアルコール類(根岸・五十嵐・木暮・石山・吉田健・遊間)、

出し汁(吉田和)、カンパ(新井啓・中尾・長谷川)、他に景品用にネギとさといも(澤田光)、他に景品用にネギとさといも(伊藤富子・川原さんから戴きました。

(高木)

点 睛

「秩父事件」の源流を訪ねて

11月10日、「秩父事件を訪ねる」バスの旅に参加した。

「秩父事件」は、一八八四(明治十七)年十一月、悪徳の金貸しや政府の失政を批判し、貧民の救済を訴えておこした日本近代史上最大の農民蜂起である。本代「や、映画「草の乱」で、事件の概要は世間に知られることになったが、一般には、長い間にわたって、事件は「農民による暴動である」とされてきた。もともと秩父郡一帯は養蚕製糸が盛んで、幕末開港以来、生糸景気がおとずれにいたが、明治十五年ごろから深刻な不況に直面し、多くの農家が高利の借金の返済不能に陥り、破産に瀕していた。村の代表と農民は、①借金の十年据置四十一年賦、②学校の一時休校、③諸税の免税などを嘆願して運動を続けたが、官側はこれを受け付けず、金貸しからも要請を拒否して、過酷な取り立てを続けた。そのため農民たちは、「新政厚徳」の旗を掲げて武装蜂起に及んだのである。その時から百三十四年。「圧制を変じて良政へ」と念じて、志高く、勇敢に戦った彼らの思いは、私たちの生きる今に実現されているのか。

辺野古移設NO!の民意を歯牙にもかけず強行建設を進める政府。非正規労働者が増えつづけ、低賃金に喘ぐ人々の群れ。六人に一人の子どもの貧困であるという実態にもかかわらず、社会保障予算は削減し、消費税増税をゴリ押ししようとする。

年金だけが頼りの私たちにとっても誠に生きにくい世の中である。圧政は挙げればきりがなく、これらの諸相は、「秩父事件」の時代に酷似していないだろうか。あらゆる階層の人々と手を結び、力を合わせて、この暴政を打破し、一人一人がかげがえのない存在として大切にされる社会をめざし、奮闘しようではないか。

(広瀬)

次回の宣伝行動 12月19日(水曜日) 12時～13時 南越谷南口